

# 大佐渡・カキツバタ池とその周辺植生

伊藤 邦 男

## I カキツバタ池及び周辺の植生概要

カキツバタ池は、佐渡の最高峰の金北山（海拔1、172m）の東北方向の縦走コース沿いにある。金北山～ドンデンの縦走コースの途中で、金北山の頂より約1km、高さにして約120mほど下った所（海拔1、050m）にある。池は南北およそ60m、東西およそ40mで、昔はアヤマ池

と称されたが、池に生育しているのはアヤマでなくカキツバタであり、現在はカキツバタ池と呼ばれる。池の周辺は樹高5mほどのミヤマナラ林でおおわれている。

（調査は1978・6・18）

## II カキツバタ池の植生

カキツバタ池は池水内 → 池の岸辺 → 池の周辺、湿地と、立地の移りかわりに応じて、フトヒルムシロ群落

→ カキツバタ・ウロコミズゴケ群落 → カワズスゲ・オオミズゴケ群落の成立がみられた。

### 1. フトヒルムシロ群落（表1・図1）

フトヒルムシロ群落は、カキツバタ池の水面のおよそ75%を占め、水面の植被率80%、水中の植被率100%である。

フトヒルムシロは日本全土の水田や池沼に広く分布する。フ

トヒルムシロは全国各地、特に山間部の湖沼や池などに群生。フトヒルムシロの浮葉の柄の先は広がって波状であるのに対し、ヒルムシロの浮葉の柄の先は波状とならない。

表1. カキツバタ池のフトヒルムシロ群落

生育型	優占種	被度・群度	植被率	環 境
浮葉植物	フトヒルムシロ	4:4	80%	海拔 1.50m、池の水面 調査区 10×10 m <sup>2</sup>

### 2. カキツバタ・ウロコミズゴケ群落（表2）

水深の浅くなる池の岸辺の水中にはカキツバタが群生し、6月の開花期はみごとである（図2）。カキツバタの下生はカワズスゲ、アゼスゲなどのスゲ類、また下生のコケ層は、佐渡自生の4種のミズゴケのうちウロコミズゴケ、シタミズゴケ、オオミズゴケがすきまなく生育する。（佐渡には他にヒメミズゴケがあり、本州中部以北に分布する。）

カキツバタは県内の池沼に広く分布する。海岸の低地（村上、海拔2m）から高地にかけて分布する。県内分布の

最高海拔は大佐渡のカキツバタ池（海拔1、050m）である。

ウロコミズゴケは、主として本州中部以北、北海道、カナダ、アラスカに分布する高地、北地系のミズゴケであり、山地の林縁の湿地に生育する。

シタミズゴケは日本特産のミズゴケで、本州及び北海道に分布する。佐渡では金北山のジュンサイ池（海拔560m）、石花ジャマミ（海拔750m）などに生育する。

表2. カキツバタ池のカキツバタ・ウロコミズゴケ群落

階層	優占種	草高	植被率	種数	環 境	
草本層	K	カキツバタ	50cm	85%	4	海拔 1.050m、池の水中・
コケ層	M	ウロコミズゴケ	6cm	100%	4	周辺、調査区 2×2m <sup>2</sup>
<p>K カキツバタ 3・3、カワズスゲ+、アゼスゲ+、シロネ+</p> <p>M ウロコミズゴケ 4・4、シタミズゴケ 2・2、オオミズゴケ 1・2、モウセンゴケ+</p>						

### 3. カワズスゲ・オオミズゴケ群落

カキツバタ池の南東側の周辺は、幅2m、長さ10mの小湿原となり、周辺のミヤマナラ林に接している。

湿原には、カワズスゲ・オオミズゴケ群落がある。カワズスゲは蛙の棲むような湿地に生える『蛙スゲ』の意味である。ヤチカワズスゲは日本全土の湿原に分布するが、ヤチカワズスゲの変種であるカワズスゲは本州中部及北海道

に分布し、高山・亜高山の湿地に生える北方・寒地系または高山・亜高山のスゲである。

オオミズゴケは日本全土の湿地に生え、湿原（低層湿原）の主要構成種である。佐渡では海拔20mの丘陵地から海拔1,000m以上の山頂部まで分布する。

表3. カキツバタ池周辺湿地のカワズスゲ・オオミズゴケ群落

階層	優占種	草高	植被率	種数	環境	
草本層	K	カキツバタ	30cm	100%	6	海拔 1.050m、池の周辺
コケ層	M	オオミズゴケ	7cm	100%	3	湿地 調査区 2×5 m <sup>2</sup>

K カワズスゲ 4・4、エゾシロネ 3・3、アゼスゲ 1・1、コケオトギリ 1・1、エゾリンドウ +、カキツバタ +  
M オオミズゴケ 2・2、モウセンゴケ 1・1、ウロコミズゴケ +



図1 カキツバタ池のフトヒルムシロ（浮葉植物）



図2 カキツバタ池のカキツバタ

### Ⅲ カキツバタ池周辺の森林植生 (表4)

大佐渡山地の屋根は海拔1,000m前後で、海拔の上から亜高山～高山の森林帯の成立は考えられない。しかし、大佐渡山地のように海洋に孤立する山塊においては、季節風などにより環境的にきびしい。大佐渡山系でも金北山及び東北方向に走る尾根はミヤマナラ林がみられる。ミヤマナラは東北～北陸の亜高山帯森林植生で、太平洋側の亜高山帯針葉樹林のシラビソ林に対比されるものである。

大佐渡山系の国仲斜面の森林植生帯の垂直分布は、山麓はコナラ～アカマツ帯、山腹～山頂にかけてミズナラ～ブナ帯となり、その脊稜部はミヤマナラ帯となる。

大佐渡山系の脊稜部、海拔1,050mのカキツバタ池の周

辺の森林は、ミヤマナラ林である。ミヤマナラ林は樹高5mと低いが、ブナ・ミネザクラを混じえ、ブナ帯上部～亜高山帯下部のフロラをもつ。低木層はサワフタギが優占、構成種はブナ、ムシカリ、ハウチワカエデ、ヤマモミジ、チシマザサ、エゾアジサイなどで、日本海側のブナ林要素が多い。

草本層は、ミヤマカンスゲが優占し、林床の湿生地を反映してエゾリンドウ、ザゼンソウ、カワズスゲが生育する。また、ツルツゲ、マイズルソウ、シノブカグマ、マンネンスギ、イチイ、ミネザクラなどの高山植物の生育は、亜高山～高山帯的立地を反映している。

表4. カキツバタ池周辺の森林植生

階層	優占種	樹高	植被率	種数	環境
亜高木層 B1	ミヤマナラ	5m	85	4	池の北側 海拔1050m
低木層 S	サワフタギ	2m	70	19	方向・傾斜ナシ
草本層 K	ミヤマカンスゲ	0.3m	90	25	調査区 5×10m
B1	ミヤマナラ3・3、ブナ1・2、ミネザクラ、ナナカマド				
S	サワフタギ、ツノハシバミ、ムシカリ、ホツツジ、ミヤマナラ、エゾユズリハ、ハナヒリノキ、ブナ、ハウチワカエデ、ヤマモミジ、ツルツゲ、チシマザサ、ハイイヌツゲ、ウラジロヨウラク、コシアブラ、ヒノキアスナロ、イチイ、エゾアジサイ、コマユミ				
K	ミヤマカンスゲ、エゾリンドウ、オオイワカガミ、チゴユリ、ハリガネワラビ、ツクバネソウ、セリモドキ、シノブカグマ、ハクモウイノデ、オシダ、シシガシラ、ツルツゲ、オオバヨツバムグラ、マンネンスギ、ハナニガナ、マイズルソウ、コシノカンアオイ、トリアシショウマ、ヒメモチ、アズマイチゲ、カワズスゲ、ザゼンソウ、ニョイスミレ、ウスバサイシン、ウシノケグサ				

#### 植物相 (フロラ) 解析

- (1) ミヤマナラ林 (亜高山風衝) 要素: ミヤマナラ
- (2) 日本のブナ林要素: ブナ、コシアブラ、ムシカリ、ツクバネソウ、コマユミ
- (3) 日本海要素: ヤマモミジ、チシマザサ、ミヤマカンスゲ、トリアシショウマ、ハイイヌツゲ、セリモドキ、ハナヒリノキ、ヒメモチ、ミヤマナラ、コシノカンアオイ、エゾユズリハ、ウラジロヨウラク、ザゼンソウ、ナナカマド
- (4) 高山・亜高山要素: ミヤマナラ、ミネザクラ、イチイ、カワズスゲ、マンネンスギ、マイズルソウ、シノブカグマ、ツルツゲ

#### 要 約

##### 1. カキツバタ池の植物群落

佐渡では最高海拔 (海拔1,050m) に位置する池で、池沼の植物群落は水中はフトヒルムシロ群落、水辺はカキツバタ・ウロコミズゴケ群落、池の周辺湿地はカワズスゲ・オオミズゴケ群落と、立地によるすみわけがみられ、自然のままに保護された高海拔地の水生・湿原植物群落として貴重である。

##### 2. カキツバタ池周辺の森林植生

ブナ帯上部～亜高山帯下部の日本海側の山地、森林帯の

代表であるミヤマナラ林が池の周辺にみられる。特徴種をミヤマナラとするブナ林要素を主要構成種とする林で、高山要素、日本海要素の混生する豊富なフロラをもつ、自然のままに保護された林として貴重である。

本文は、佐渡の植物第5号『佐渡植物風土記』(1990) から抜粋したものである。(伊藤邦男・いとうくにお 新潟県自然環境保全審議会専門調査員・〒952-12 新潟県佐渡郡金井町千種 106-3)